

くわがたの住む里山に

はじめまして

かぶら里山保全会

1) 発会

2001年、富岡市の「くわがたの住む里山」プロジェクトに参加した齊藤靖明さん、久保好唯さんの呼びかけで、2002年に60人ほどが集まって「かぶら里山保全会」が発足しました。以来、毎月第3日曜日を定例の活動日として、市内蔵地区の久保好唯さんの所有地と周辺の里山10数ヘクタールを拠点に活動してきました。



竹炭を焼くことになりました。ドラム缶窯で始めましたが、1年ほどして本格的な泥窯を作ることになりました。あちこちの窯を見学しました。遠く京都宇治の窯も見に行きました。市の補助金だけでは足りないので、廃業した瓦屋さんから耐火煉瓦をもらうなど、できるだけ古材で間に合わせました。温度センサーを施す

2) 伐採から自然観察・竹炭焼きも

初めは、はびこった竹の伐採、葛の根の掘り起こしなどが中心でした。筍がたくさん生育する場所があり、「そこは伐らずに」という声もありましたが、とにかく「一通り伐採」とすべて伐りました。3年ほど掛かりました。そういうなかで近くの富岡北中学校の生徒らが、齊藤さんの指導で自然観察を行うようになりました。域内に珍しい魚が生息するという池があったことや、富岡周辺にはいるはずのない蝶が見つかったりしたからです。



当初、伐採した竹は燃やしていましたが、あまりに芸がないということで

など見かけは立派な窯が出来上がりました。「いつ天井が落ちるか楽しみ」という周囲のからかい半分の声をよそに、この窯はつい最近まで10年間見事に炭を焼き続けました。市の予算が付いて（今回もそれだけでは不足でしたが）今年3月、2代目の窯が完成しました。



完成した2代目炭焼き窯

3) ゆとりの時間の生徒たち

里山には年一回一週間、近くの富岡北中の2年生がゆとりの時間の学習で来ていました。「ま

した」と過去形の訳は「5」で述べます。

都合のつく会員3, 4名が生徒の指導に当りましたが、これが会員にとってはとても楽しみでした。生徒たちの様子が3日目ぐらいから変わり始め、終わる頃には皆見違えるように明るく積極的になるからです。来る生徒の質は毎年違いました。学校でそうしたのか、自然にそういう流れになったのか、大小の問題を抱えた生徒が多かったようです。しかし変わり様は同じでした。

一度も登校したことのない生徒が、里山のゆとり学習を契機に保健室登校から教室へとという事例もありました。指導に加わったお年寄りへの「ためぐち」を聞きとがめた久保さんが生徒全員を正座させて注意していました。たまたま指導にきた先生も一緒に正座させられて注意を、などということもありました。

こんなことで学校の里山に対する信頼が増したようで、また生徒にも口コミで評判が広がったのか、数多くの参加希望者がありました。ある年には20名を越える希望がありました。これはこの年の富岡北中2年生の約半数ということでした。

4) 12月は自家栽培の粉で手打ちそば

会には炊事班もできて、定例の活動日には昼食が振舞われ、会員の最大の楽しみです。

竹を伐採した跡地は、野菜畑にしたり手作りのベンチを置いて休憩所としたりしました。5年ほど前からはそばの栽培もしています。12月の活動日には会員のそば打ち仲間が来てそばを振舞ってくれます。これが好評で、子どもたちまで競って食べるのには驚きです。



原嶋喜英さん

5) 今…原発後の社会モデルに

以上、発会から経過を追って、これまでの会の活動の一端を紹介しました。

現在の活動は、竹や雑草の伐採など里山の維

持・管理が主になっています。活動の中心的役割を担っていたお年寄りがさらに高齢になった等で、常時活動する会員は10名ほどです。いきおい、活動は個人頼みになりがちです。中学生のゆとり学習も今はありません。小野の里でも学力低下の元凶扱いされているのでしょうか。しかし里山で学んだ中学生たちは、時に訪ねて来て里山を楽しんでいます。塾にも行かず里山暮らしを謳歌した久保さんの息子さんは、バレー部員としてインターハイに出場。今は名大生ですが、大都会で里山暮らしを懐かしんでいるようです。



久保好唯さん

今いる会員は皆里山に魅せられた人です。里山とそこに集う人との関係を大切にとっています。肩肘張って声高に環境保護などとは言いません。しかし、何年もの歳月を耐えて蘇ったのに、報道されるや踏み荒らされてしまったタラの林や山百合の群れを見て唇をかみ締めた人たちです。

時に会員は、番小屋（ほとんど会員手作りの10畳ほどの小屋。時に深夜に及ぶ炭焼き用）で飲み食いしながら語り明かします。そこで知れる会員の生活のあり様、姿勢は成長一本やりとは対極のものです。たった10人ほどの極小社会ですが、原発後の立派な社会モデルになり得るのではと、私は思っています。会員を増やして活動を広げることが第一とは思いません。しかし、そういう意味で里山の活動がもっと広がればとは、私の個人的思いです。

(文責：原嶋 喜英)

写真：倉林 順一・長谷川陽子)



かぶら里山保全会

活動場所：富岡市蔵
参加費無料／年会費：1世帯1,000円
[TEL] 0274-63-2814 (久保好唯)
[HP] <http://www.geocities.jp/kaburanosato/>
[MAIL] (事務局) kubofarm@titan.ocn.ne.jp
(観察啓発班) abusaito@dream.com